

租税特別措置・補助金見直しに関する関係閣僚等及び副大臣会議（第2回）議事録

1 日時

令和8年4月10日（金） 7時45分～7時55分

2 場所

総理大臣官邸2階小ホール

3 出席者

木原内閣官房長官、松本行政改革担当大臣、林総務大臣、片山財務大臣兼租税特別措置・補助金見直し担当大臣、鈴木内閣府副大臣、今枝デジタル副大臣、瀬戸復興副大臣、高橋総務副大臣、三谷法務副大臣、堀井外務副大臣、中谷財務副大臣、中村文部科学副大臣、仁木厚生労働副大臣、根本農林水産副大臣、山田経済産業副大臣、佐々木国土交通副大臣、青山環境副大臣、宮崎防衛副大臣、高橋財務大臣政務官、尾崎内閣官房副長官、佐藤内閣官房副長官、露木内閣官房副長官、遠藤内閣総理大臣補佐官（連立合意政策推進担当）、阪田内閣官房副長官補、佐伯内閣広報官、七條内閣官房行政改革・効率化推進事務局長、前田内閣官房行政改革・効率化推進事務局租税特別措置・補助金見直し担当室長

4 議事内容

【中谷財務副大臣】

租税特別措置・補助金見直しに関する関係閣僚等及び副大臣会議を開催いたします。はじめに、租税特別措置・補助金の見直し担当の片山大臣からご発言をお願いいたします。

【片山財務大臣兼租税特別措置・補助金見直し担当大臣】

財務大臣兼租税特別措置・補助金見直し担当大臣の片山さつきです。

まず、先日、令和8年度予算及び改正税法が成立いたしました。各府省庁のご協力に感謝を申し上げます。

本日は、次の令和9年度予算要求・税制改正要望に向け、各府省庁に対しお願いさせていただきたい事項について、私から御説明します。

租税特別措置・補助金の見直しでは、年明けから2月末まで国民の皆様から見直しのご提案を募集しまして、総計約3万7千件ものご提案・ご意見をいただきました。

ご提案をお寄せいただいた皆様に、この場を借りて厚く感謝申し上げたいと思います。

いただいたご提案・ご意見につきましては、お手元の「資料1：租税特別措置・補助金・基金の適正化に向けた提案募集の結果について」の通り、その概要をとりまとめましたので、本日公表いたします。

その中では、例えば事務負担など現場の視点、仕組みの透明性確保、政策効果検証の徹底、国民の皆様がお感じになっている不公平感など、改めて多くの気づきをいただいたご提案・ご意見を非常に数多く頂戴いたしました。今後は、次の令和9年度の予算要求・税制改正要望に向けまして、この国民の皆様からのご提案・ご意見も踏まえて、租税特別措置・補助金、基金について各省で自己点検を行っていただくことからスタートしたいと思っていますので、お願いをいたします。

国民の皆様からのご提案・ご意見を踏まえた、効果検証の強化、政策目的と手段の精査、透明性・効率性の向上等の「点検の視点」につきましては、「資料2-1：各府省庁における要求・要望に向けた自己点検」に整理をいたしましたので、ご活用いただければと思います。

また、併せましてですね、この点検の実施に当たっては、「資料2-2：租税特別措置等の各府省庁自己点検について」及び、この後、松本大臣からご説明のある「資料3：令和8年度公開プロセスの流れ」を踏まえて行っていただくようお願いいたします。

各府省庁におかれましては、国民の皆様への説明責任を果たすべく、国会や会計検査院、さらには、本日財務省から今年度の調査事案を公表する予算執行調査などにおける様々な指摘とともに、今回頂いたご提案・ご意見を真摯にご検討頂き、無駄の徹底的な精査を含め、政策効果の低い租税特別措置や補助金・基金の見直しに要求・要望の段階から取り組むようお願いいたします。

私の下、見直し室の担当から事務的に各府省庁と連絡させていただきますが、ご出席頂いている各府省庁の副大臣の皆様におかれましては、リードしていただくと。事務方を督励していただいて、政務レベルがリーダーシップをとって、強力に牽引をしていただくことをお願いいたします。

【中谷財務副大臣】

次に、松本行政改革担当大臣からご発言をお願いいたします。

【松本行政改革担当大臣】

ただいま片山大臣からご紹介がありました国民提案の結果には、今後の見直しに資する内容も多く含まれており、令和8年度行政事業レビューの取組においても活かしていく所存でございます。

この点、行政事業レビュー実施要領において、租税特別措置・補助金見直しの取組との連携を明確化し、これから取り組んでいただく資料3にございます「春の公開プロセス」について、赤の点字線の部分でございますけれども、対象事業選定にあたり、従来の外部有識者会合での絞り込みに加え、新たに政務の了承を必須とすることや、基金事業を所管する府省庁は、原則1つ以上の基金事業を対象事業に選定すること等を盛り込みました。

各府省庁におかれましては、片山大臣からの要請を踏まえ、「春の公開プロセス」においても、政務のリーダーシップの下、「点検の視点」を活用し徹底した補助金・基金の自己点検に取り組み、令和9年度予算の概算要求に反映するようにお願いいたします。

【中谷財務副大臣】

次に、遠藤総理補佐官からご発言をお願いいたします。

【遠藤総理補佐官】

我が党からも様々片山大臣とご相談しながら取り組んできたわけですが、租税特別措置・補助金見直しは、連立政権合意に掲げられた大きな一つのテーマでございます。

日本維新の会としても、租税特別措置・補助金や基金については、国民から様々な声を直接聞いております。片山さつき大臣からのお話にもありましたように、補助金の使い道についてのさまざまな疑問に答えるためには、まずは補助金の透明性を高めること等重要でございます。単に金額を削るという視点ではなく、補助金の効果を高める、自己収入を確保する、といった視点も重要であると考えております。基金については、成果管理の徹底や運営・執行の透明化・適正化などにより、投資の効果を高めるとともに成果を国に還元させるという視点も課題であります。

租税特別措置等についても、政策効果が低いものは廃止すべきの方針の下で、見直しを進める必要があると考えております。

こうした点も踏まえて、日本維新の会としても今後、精力的に議論して、与党ともよく連携をしながら点検を進め、見直しにつなげていただきたいと思いますので、よろしくご協力のほどお願いを申し上げます。

【中谷財務副大臣】

最後に、木原官房長官から締めくくりのご発言をお願いいたします。

【木原内閣官房長官】

まずは、令和8年度予算と関連法案の成立に御尽力いただいて改めて御礼申し上げます。本日ですが、令和9年度予算編成や税制改正プロセスでの租税特別措置や補助金、基金の見直しに向けて、本格的にキックオフをするため、お集まりをいただきました。

「責任ある積極財政」の下、強い経済の構築と財政の持続可能性の実現を両立させ、次の世代に引き継いでいくことは、今を生きる私たちが将来世代に対して果たしていくべき責任であり、今般の取組は、この責任を果たす上で重要なものとなります。

この取組を通じまして、国民生活の下支えや経済成長に資する効果が乏しい施策を見直し、効果の高い施策への重点化、これを大胆に進めていかなければなりません。

こうした中で、本日、片山大臣にとりまとめいただいた「自己点検」の視点においては、効果検証の強化、政策目的と手段の精査、透明性・効率性の向上等の重要性が示されております。この視点は、国民の皆様からの御提案を踏まえて、とりまとめいただいたものであり、各府省庁においては、片山大臣からの要請にあったとおり、この視点を御活用いただき、しっかりと点検に取り組んで下さい。

また、遠藤補佐官から御発言がありましたとおり、与党ともよく連携して取組を進めるようにしてください。

最後に、各副大臣がリーダーシップを適切に発揮し、良い成果を上げていくことを期待しておりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

【中谷財務副大臣】

ありがとうございました。それではプレスの方はここでご退出をお願いいたします。

(報道関係者退出)

【中谷財務副大臣】

他にご発言のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【片山財務大臣兼租税特別措置・補助金見直し担当大臣】

4月7日に予算が通ったばかりですが、予算編成のプロセスは一年中やっているものなんです。で、実は一番目立たないけど、一番効果があるのはこの春から夏にかけてです。ですから、要求が出るまでがある意味一つの勝負でもあるし、その間、高市政権の場合は、盛り込まなければいけない政策もたくさんありますので、本当に今回そういうプロセスで、またお仕事を増やしてしまったんですけども、それは、少なくとも財政に大きな重きが置かれている我が政権において非常に重要なプロセスになりますので、大変期待しています。

国民の御提案はそのまま、我々の各省担当から、皆様のところの会計課等に渡しますので、お互いに認識される。これはすごく重要なことです。資料の最後でまとめてありますが、うちの役所多くなって思われるところも、あんまりないと思われるところもあるかもしれない。内閣府の場合は複数の担当に分かれるので、今日来られてない副大臣もいらっしゃるかもしれないので。つまり、予算の窓口は、内閣府ではこの方だけけれども、もうちょっと分かれているところもあるかもしれませんが、結構多いんですよ、内閣関係は。それも含めて、ぜひ、国民の目線を拾っていただきたい。というのと、やってみて私も驚いたんですが、昔こういうアンケートを取ると、一言一句変わらないはがきが2万通廊下に積み上がったりののが普通だったんですけど、今回は多様性があるんですよ。そうした全く同じものがないとは言わないけど、それぞれで考えて作られているように見える。

なので、我々も本当に気を引き締めて、一般の方が、国会で質問する、委員会で質問するようなことを言ってきていらっしゃる状況ですから、特に衆議院の方はより厳しい質問に日々地元でもさらされていると思いますので、それに対して何かと言えるようなことをや
っていかなくちゃいけないと思っていますので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

【中谷財務副大臣】

他にございますか。よろしいですか。はい、ありがとうございました。以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。

以 上